

世界遺産を掘る 第5回

二条城と徳川三代

京都市考古資料館 山本 雅和

はじめに

・「二条城」(『日本史B用語集』山川出版社)
徳川家康が上洛時の居館として、1601～03年に造営。堀をめぐらす平城で、桃山風の二の丸御殿とその前庭は芸術的価値も高い。

- ・3つの「二条城」
足利將軍の「二条城」
13代將軍足利義輝が斯波氏の邸宅跡に造営した居館(「武家御所」ほか)
織田信長が15代將軍足利義昭のために造営した城郭(「武家御城」ほか)
遺跡名「旧二条城」。
織田信長の「二条城」
織田信長が二条家の邸宅を受領して造営した居館(「二条御新造」)
誠に親王に進上され、本能寺の変では織田信忠らが立て籠もり自刃(「下御所」・「二条新御所」)
遺跡名「二条殿御池城」
徳川將軍の「二条城」
史跡「元離宮二条城」

1 京都に造営された天下人の城

①聚楽第

・沿革

豊臣秀吉が京都における拠点として造営した城郭
天正14年(1586) 建造を着手・翌年に完成
天正16年(1588) 後陽成天皇が聚楽第に行幸
天正19年(1591) 豊臣秀次へ関白の地位とともに譲与、屋敷替えによる城下町の整備
天正20年(1592) 後陽成天皇が聚楽第に2度目の行幸
文禄4年(1595) 秀次の失脚・自刃にともない破却
・構造
内郭(本丸・北之丸・西之丸・南二之丸)・外郭を備えた大規模な平城
中枢部東側を中心に多数の武家屋敷が造営される

②伏見城

・沿革

(指月城)

豊臣秀吉が文禄元年(1592)に宇治川に臨む指月の岡に隠居屋敷を造営
文禄3年(1594) 天守などを備えた本格的な城郭として拡張整備
文禄5年(1596) 閏7月13日の大地震により建物が倒壊
(木幡山伏見城)
豊臣秀吉が木幡山周辺の東西約3.3km・南北約2.2kmの範囲に造営した大規模な城郭

秀吉没後は徳川氏の支配下におかれる

慶長5年(1600) 関ヶ原の合戦前哨戦で西軍の攻撃を受け落城 翌年再建
元和9年(1623) 徳川家光の將軍宣下を最後に廃城・破却
・構造

城郭中枢部の大部分が桃山陵墓地に含まれる(指月城は現在の観月橋の北東側)
城郭周辺部を離壇状に造成、多数の武家屋敷が造営される
城下町を南北方向に縦貫する京町通・両替町通を中核として町屋が集められる
・城下町周辺の整備

城下町の周囲には惣構と呼ばれる土塁・切岸や空堀・水濠を構築
伏見港の整備
太閤堤の構築による宇治川・淀川の制御

宇治橋の撤去と豊後橋の架設

向島城の築城

③淀城

・沿革

(淀古城)

15世紀中頃に畠山政長が桂川・宇治川・木津川が合流する北岸にあたる淀の納所に築城
天正17年(1589) 豊臣秀長(秀吉の弟)が改修 側室の茶々が居住「淀殿」
文禄4年(1595) 廃城 資材は伏見城造営に使用される
(淀城)

徳川幕府が伏見城破却にあたり山城国の押えとして造営した城郭

元和9年(1623) 松平定綱が造営を開始

寛永元年(1624) 二条城天守を淀城に移築

宝暦6年(1756) 落雷により天守などが焼失

・構造

桂川・宇治川・木津川に囲まれた中島に立地する平城
城郭北側・東側に武家屋敷・町屋を配置
城下町を京街道が縦貫

2 二条城

- 沿革

徳川家康が京都における拠点として造営した城郭。幕末にも政治の舞台となる

慶長 6 年（1601）建造を着手・慶長 8 年（1603）御殿が完成・慶長 11 年（1606）天守が完成

寛永元年（1624）二条城天守を淀城へ移す　伏見城天守を二条城へ移す

寛永 3 年（1626）後水尾天皇が二条城に行幸

寛延 3 年（1750）落雷により天守が焼失

天明 8 年（1788）天明の大火により本丸御殿などが焼失

慶応 3 年（1867）徳川慶喜が大政奉還を表明

- 立地

北西部は平安宮跡南東隅・北東部は冷然院跡・南西部は神泉苑跡

聚楽第の南側　二条大路の西延長

当時の市街地西側に接する位置（造営時に「数千軒」が移転との記録もある）

- 構造

（慶長期）

東西約 350m・南北約 400mの方形単郭式平城

東面と北面に大手門

天守は北西部（豊臣秀長が築城した大和郡山城天守を移築と伝える）

中心部に御殿・台所　西部に庭園

（寛永期）

東西約 530m・南北約 400mの方形輪郭式平城　本丸は東西・南北とも約 150m

後水尾天皇の行幸に備えて西側へ拡張・本丸を造成　拡張部の南北に石垣と中仕切門

東面と北面に大手門　西面に埋門（南門は大正 4 年に追加）　四隅に隅櫓

天守は本丸南西隅（伏見城天守を移築）

本丸は中心部に本丸御殿（伏見城御殿を移築と伝える）・台所　北西・北東・南西に隅櫓

二の丸は中心部に二の丸御殿（慶長期御殿を改築）　北東部に台所・米蔵　西部に庭園

二の丸御殿南西側に行幸御殿（新築）

（周辺）

外堀の周囲に道路・柵

堀川を外郭とする（堀川西岸石垣の刻印）

北側に京都所司代屋敷

西側に東町奉行所・西町奉行所

3 二条城の発掘調査

- 外堀周辺

竹屋町通・押小路通で路面・側溝・柵

押小路通では堀の掘削にともなう 1 m以上の盛土

- 二の丸御殿周辺

慶長期の整地層および大型竈

寛永期の整地層および二の丸庭園への導水施設・石組溝

- 緑の園（二の丸御殿北側）

北大手門からの路面

- 桜の園（二の丸御殿南側）

慶長期の西堀内側の土塁の石垣

寛永期の後水尾天皇らの行幸御殿

- 本丸

3 m以上の大規模な盛土

寛永期の徳川秀忠の本丸御殿　天明の大火の痕跡

おわりに

- 慶長期の二条城

北が高く南が低い旧地形の影響（二の丸御殿付近では約 40 cmの整地層）

北大手門・台所（大型竈）の位置が洛中洛外図に一致

- 寛永期の二条城

盛土による大規模な整地（二の丸御殿付近：40～50 cm・桜の園：50～110 cm・本丸：3 m以上）

本丸御殿・行幸御殿などの遺構を発見

調査で見つかった建物が中井家の絵図に一致

- その後の二条城

天明の大火・文政の大地震などの痕跡を確認

主な引用・参考文献

「左京二条二坊（3）史跡二条城」『昭和 56 年度京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所　1983 年

『洛中洛外図　都の形象―洛中洛外の世界』京都国立博物館　1996 年

『二条城　歴史群像名城シリーズ⑩』学習研究社　1996 年

原山充志「是ヨリ北紀州」『リーフレット京都』No.153（財）京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館　2001 年

日本史研究会編『豊臣秀吉と京都』文理閣　2001 年

『史跡旧二条離宮（二条城）　京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告　2001-15』（財）京都市埋蔵文化財研究所　2003 年

馬瀬智光『京の城―洛中洛外の城郭―』京都市文化市民局　2006 年

『史跡旧二条離宮（二条城）　京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告　2009-14』（財）京都市埋蔵文化財研究所　2010 年

『史跡旧二条離宮（二条城）　京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告　2009-15』（財）京都市埋蔵文化財研究所　2010 年

山本雅和「二条城の造営」『リーフレット京都』No.262（財）京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館　2010 年

元離宮二条城公式ホームページ

二条城関連略年表

年号	西暦	出来事
永禄11	1568	織田信長、上洛。足利義昭、室町幕府15代将軍に就任。
永禄12	1569	信長、義昭のために武家御城（旧二条城）を造営
天正元	1573	信長、上京焼き討ち・武家御城（旧二条城）を破却。足利義昭を追放、室町幕府滅亡。
天正4	1576	信長、二条御新造（二条殿御地城）を造営
天正7	1579	信長、二条御新造を誠仁親王へ進上。下御所あるいは二条新御所と呼ばれる。
天正10	1582	本能寺の変。二条新御所焼失。豊臣秀吉、明智光秀と山崎に合戦。
天正11	1583	秀吉、妙顕寺城に入る。前田玄以、京都所司代に就任。
天正12	1584	小牧・長久手の戦い。
天正13	1585	秀吉、関白に就任。
天正14	1586	秀吉、聚楽第の造営を開始。太政大臣に就任。徳川家康、豊臣秀吉に臣従。
天正15	1587	聚楽第完成。秀吉、洛中検地、北野大茶湯開催、キリスト教を禁止。
天正16	1588	後陽成天皇、聚楽第行幸。秀吉、淀城築城のための人員を徴発。
天正17	1589	秀吉、天下を統一。家康、関東へ移封、江戸城の造営開始。
天正19	1591	秀吉、御土居を構築、寺町の造営。洛中の地子銭を永代免除。甥の豊臣秀次に関白を譲る。
文禄元	1592	秀吉、伏見指月に新屋敷の造営開始。文禄の役始まる。
文禄2	1593	秀吉、指月城へ移る。
文禄3	1594	秀吉、指月城（伏見城）の拡張に着手、城下町造営。淀城を破却。
文禄4	1595	秀次、高野山に自害。秀吉、聚楽第を破却。
慶長元	1596	慶長大地震、伏見城倒壊。秀吉、伏見木幡山に新たに伏見城を造営。家康、内大臣に就任。
慶長2	1597	木幡山伏見城天守完成。慶長の役始まる。
慶長3	1598	秀吉、死去。家康、江戸城拡張。
慶長4	1599	家康、伏見城に入る。阿弥陀峰に秀吉廟が創建、豊国大祭礼が催される。
慶長5	1600	関ヶ原の戦い。前哨戦にて伏見城落城。
慶長6	1601	家康、伏見城復旧、二条城造営に着手。板倉勝重、京都所司代に就任。
慶長7	1602	二条城御殿、天守の建設開始。
慶長8	1603	家康、伏見城にて征夷大将軍の宣下を受ける。二条城御殿完成、家康入城。
慶長10	1605	徳川秀忠、伏見城にて征夷大将軍の宣下を受ける。
慶長11	1606	二条城天守完成。江戸城拡張。
慶長12	1607	江戸城天守（慶長天守）完成。
慶長16	1611	家康、二条城にて豊臣秀頼と会見。江戸城西ノ丸造営。
慶長19	1614	大坂冬の陣。家康、二条城より出陣。
慶長20	1615	大坂夏の陣。家康、二条城より出陣。豊臣氏滅亡。
元和2	1616	家康、死去。
元和6	1920	和子が後水尾天皇に入内。
元和8	1622	板倉重宗、京都市中法度を発令。江戸城本丸拡張、天守（元和天守）完成。
元和9	1623	徳川家光、伏見城にて征夷大将軍の宣下を受ける。伏見城を破却、天守を二条城へ移築。
寛永元	1624	二条城、後水尾天皇行幸に向けての大改築開始。二条城天守を淀城へ移築。
寛永2	1625	二条城代・二条城在番を設置。
寛永3	1626	二条城、大改築完了。後水尾天皇、二条城行幸。
寛永5	1628	二条城行幸御殿を簿水尾天皇御所へ移築。
寛永9	1632	秀忠、死去。
寛永11	1634	家光、上洛。二条城に入る。以後、幕末まで將軍の上洛は途絶える。
寛永13	1636	江戸城天守（寛永天守）完成。
寛永14	1637	幕府、内裏を造営。
明暦3	1657	明暦の大火。江戸城天守焼失、以後再建されず。
貞享3	1686	二条城破損修理。
正徳3	1713	二条城破損修理完了。
寛延3	1750	落雷により二条城天守焼失、以後再建されず。
天明4	1767	二条城在番廃止、二条城定番を設置。
天明8	1788	天明の大火。二条城本丸御殿など焼失。
文久2	1862	二条城、徳川家茂上洛準備のため仮設建物を建設。
文久3	1863	家茂、上洛。二条城に入る。
慶応2	1866	徳川慶喜、二条城にて征夷大将軍の宣下を受ける。
慶応3	1867	慶喜、二条城にて大政奉還を表明。徳川幕府滅亡。
明治元	1868	明治維新。
明治4	1871	二条城、京都府の庁舎となる。
明治17	1884	二条城、宮内省の所管となり二条離宮となる。
明治18	1885	二条城修理開始（明治修理）。
明治26	1893	二条城本丸に桂宮御殿を移築、翌年完了。南門ができる。
大正4	1915	大正天皇即位大礼。饗宴殿などが造営。南門ができる。
昭和14	1939	二条城、京都市の所管となる（史跡元離宮二条城）。翌年より一般公開開始。
昭和24	1949	二条城修理開始（昭和修理）。
昭和27	1952	文化財保護法に基づき、二条城二の丸御殿が国宝、他22棟が重要文化財に指定。
昭和28	1953	二の丸庭園が特別名勝に指定。
昭和57	1982	二の丸御殿障壁画が重要文化財に指定。
平成6	1994	二条城、世界文化遺産に登録される。
平成17	2005	築城400年記念・展示・収蔵館開館

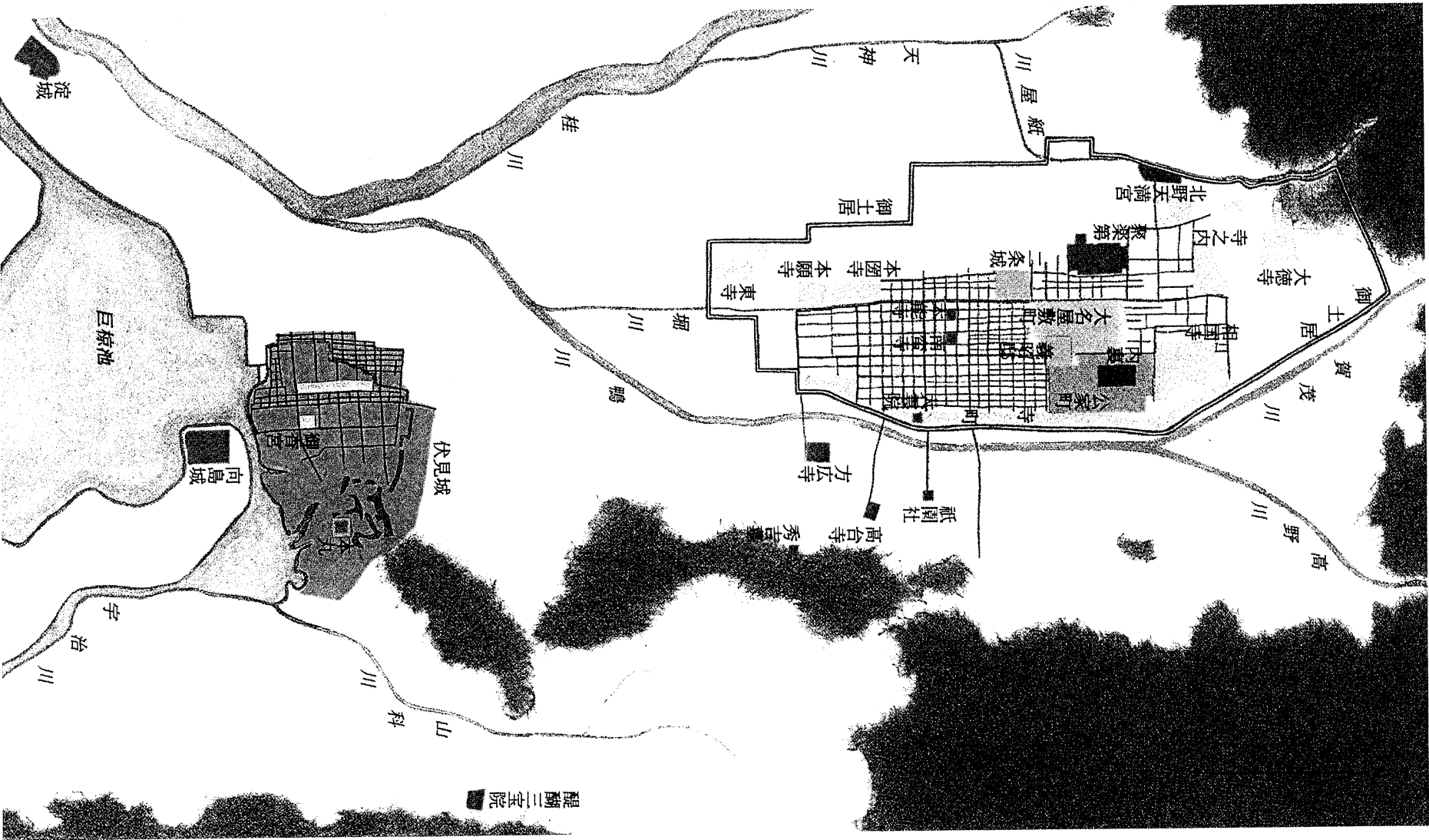


図 1 関連遺跡位置図

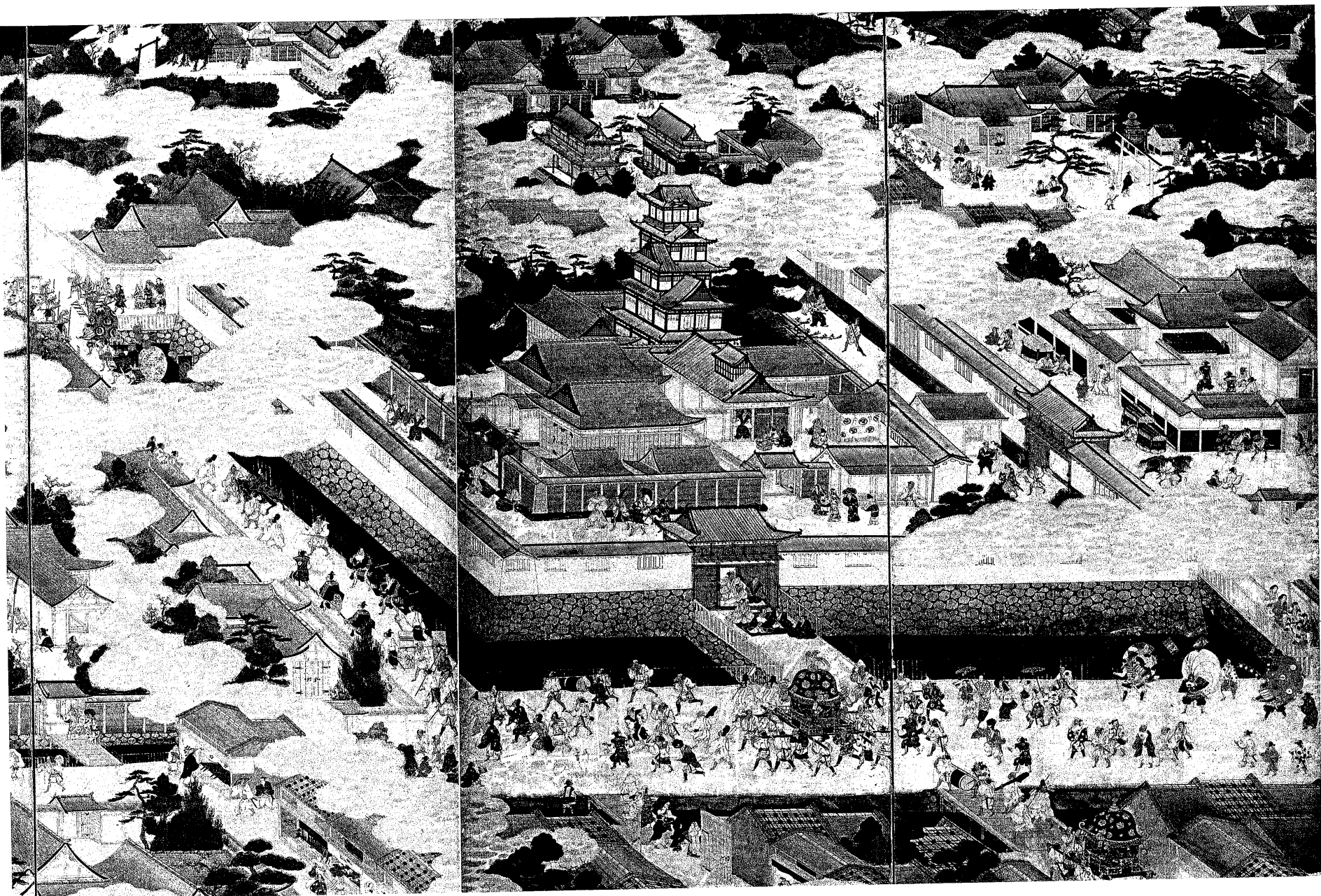


图2 『洛中洛外图』(林原美術館蔵 部分)

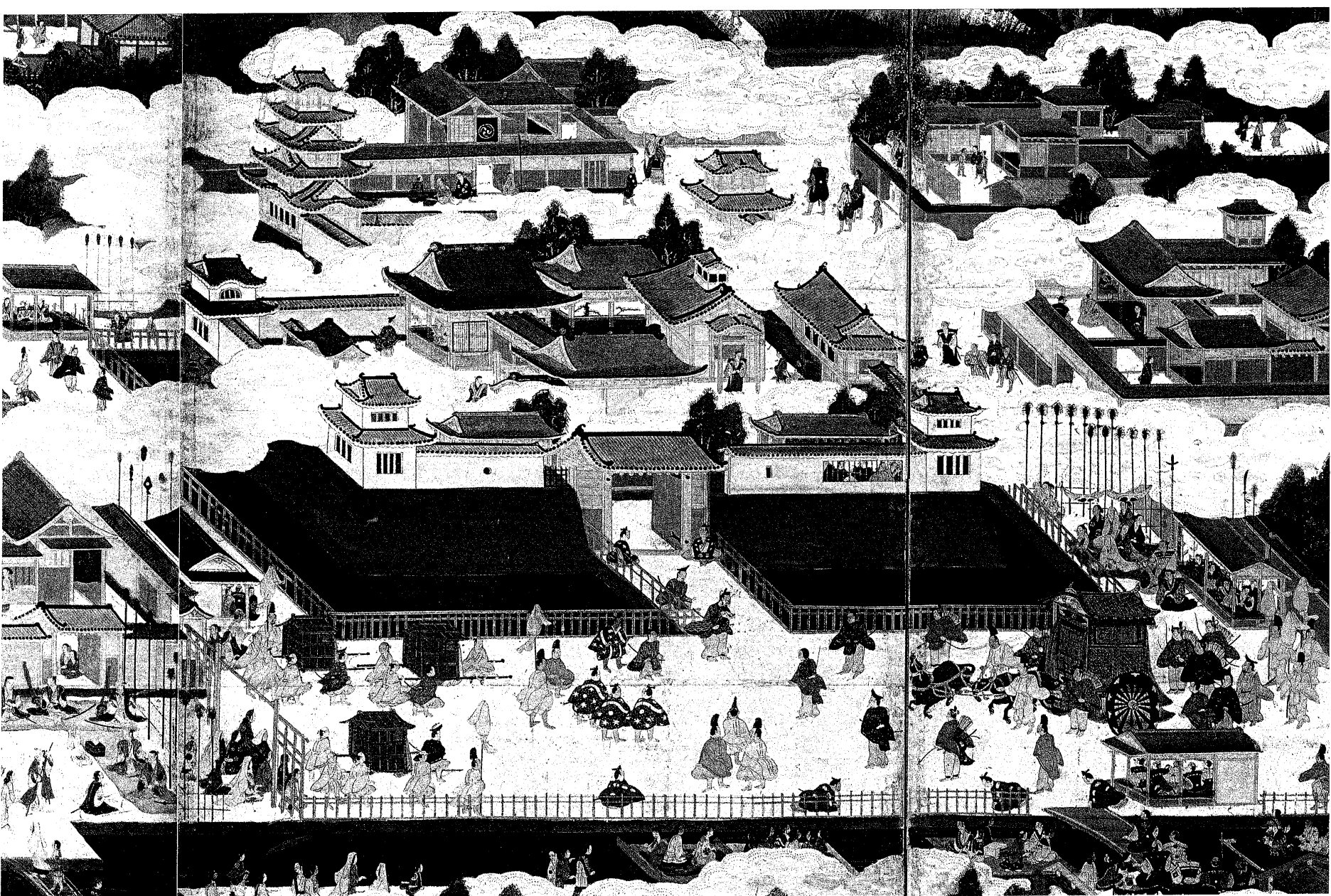


图3 『洛中洛外图』(サンクトー美術館蔵 部分)

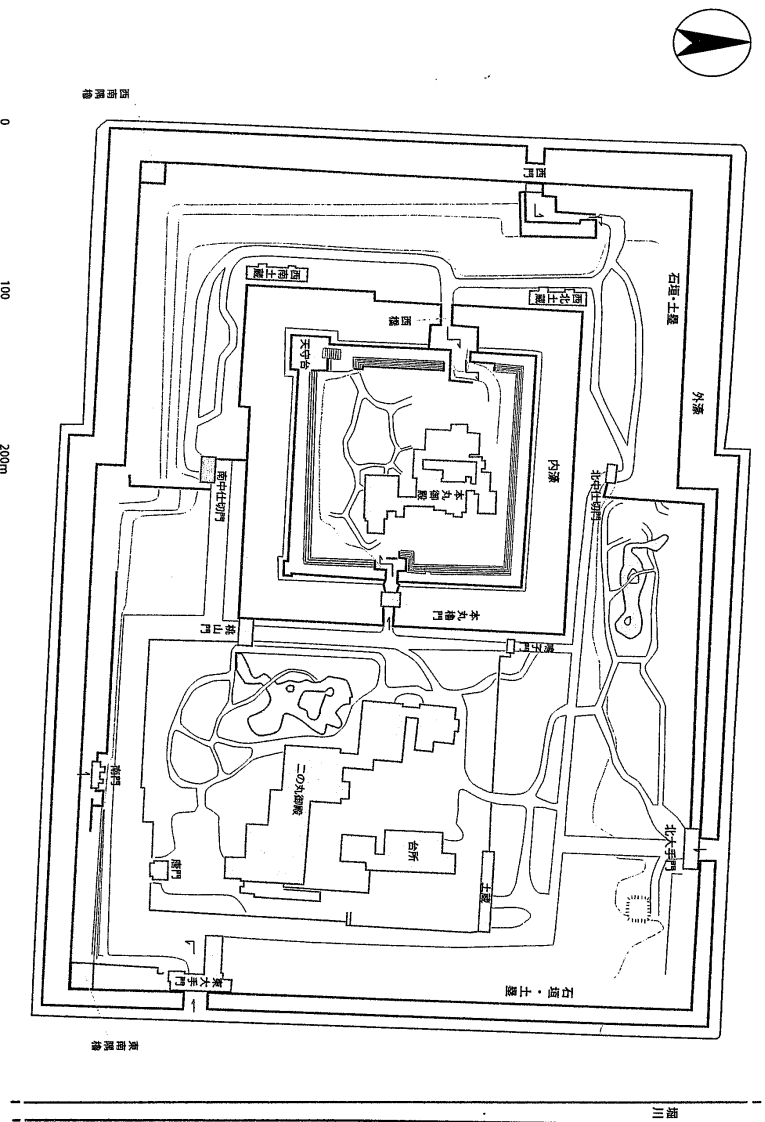


図 4 二条城平面図 (馬瀬 2006 年)

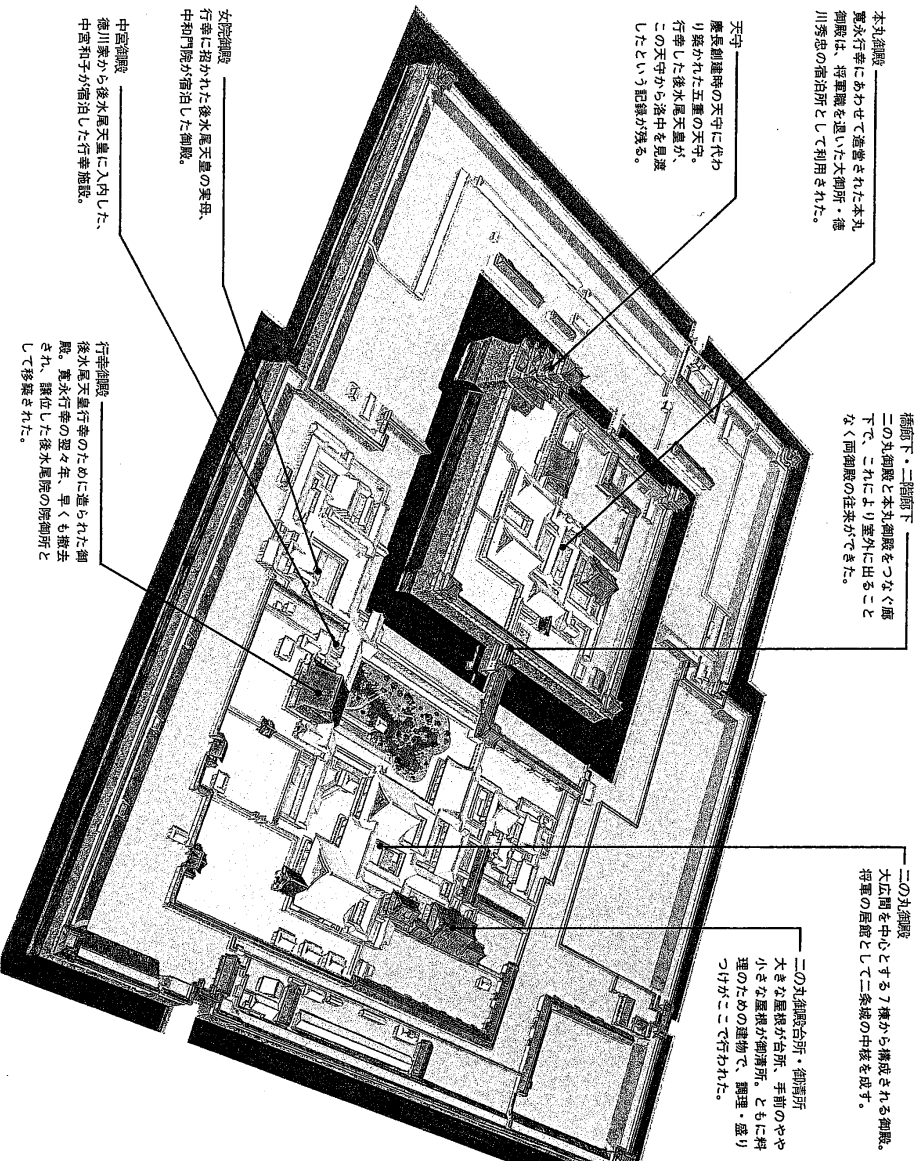


図 5 寛永期二条城復元鳥瞰図 (学習研究社 1996 年)

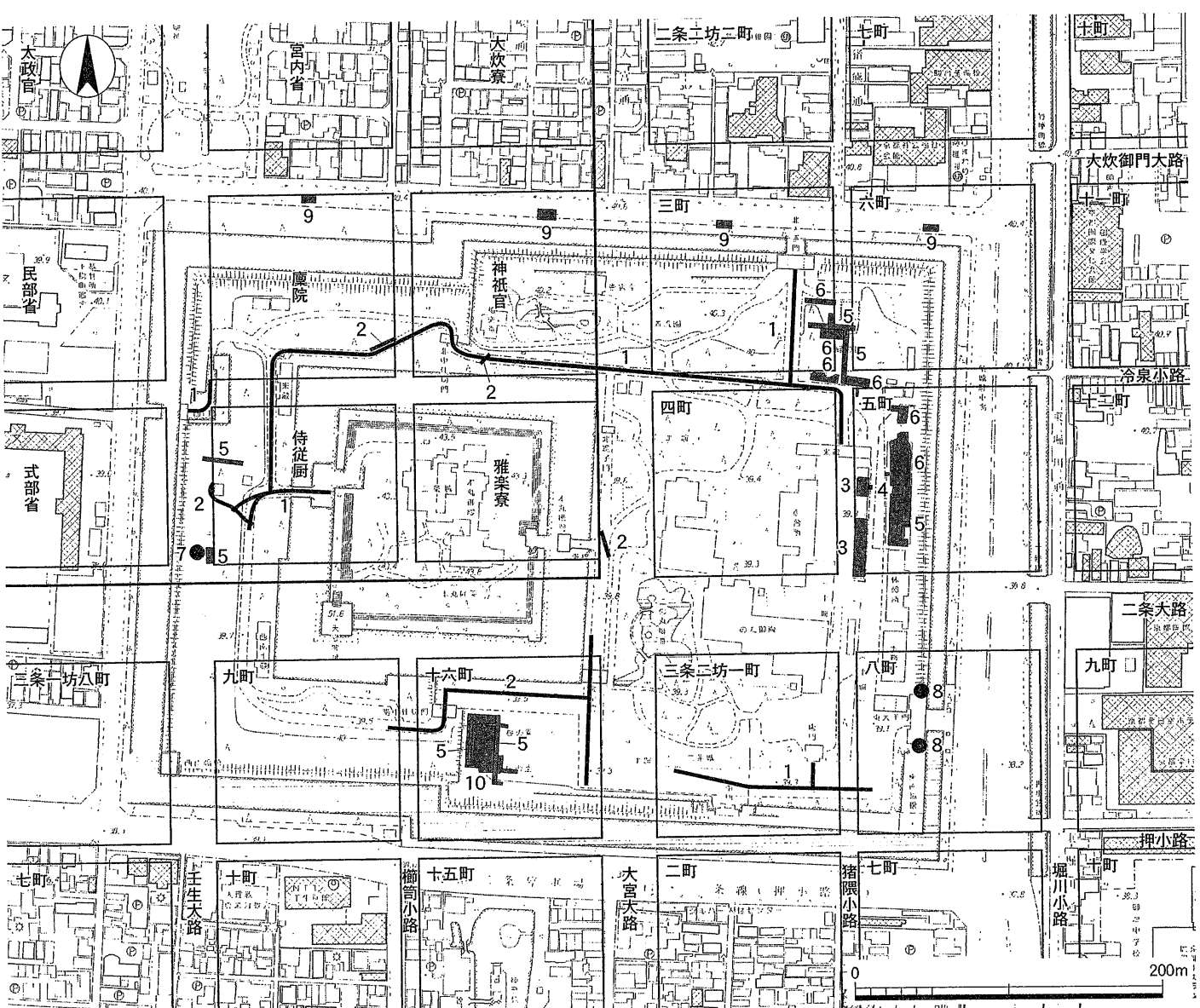
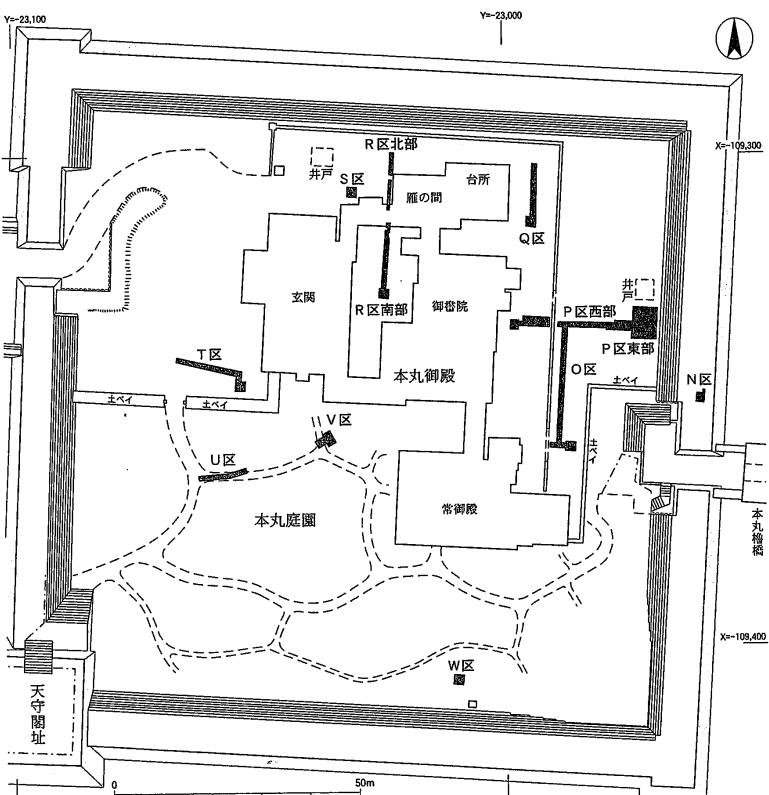
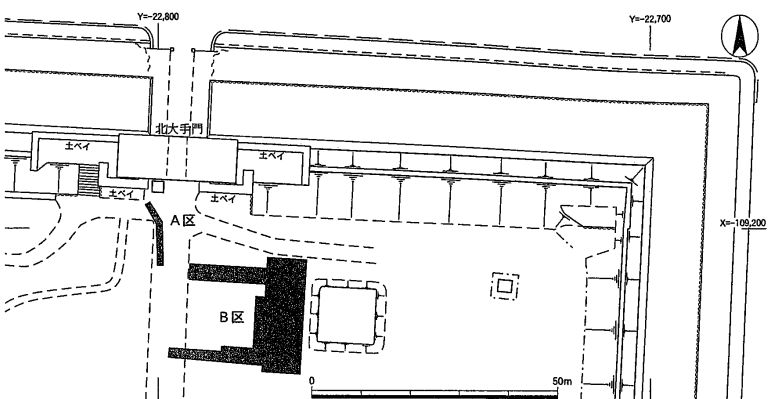
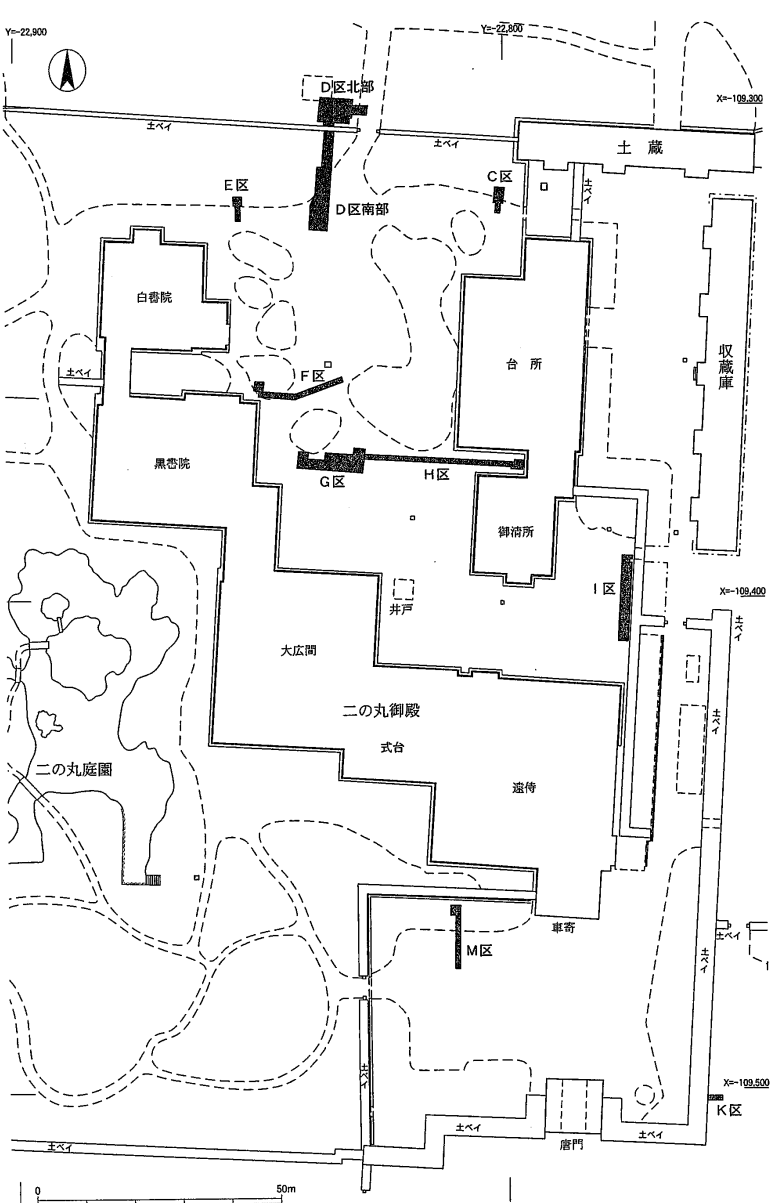


図 6 周辺調査位置図 (京都市埋蔵文化財研究所 2010 年)



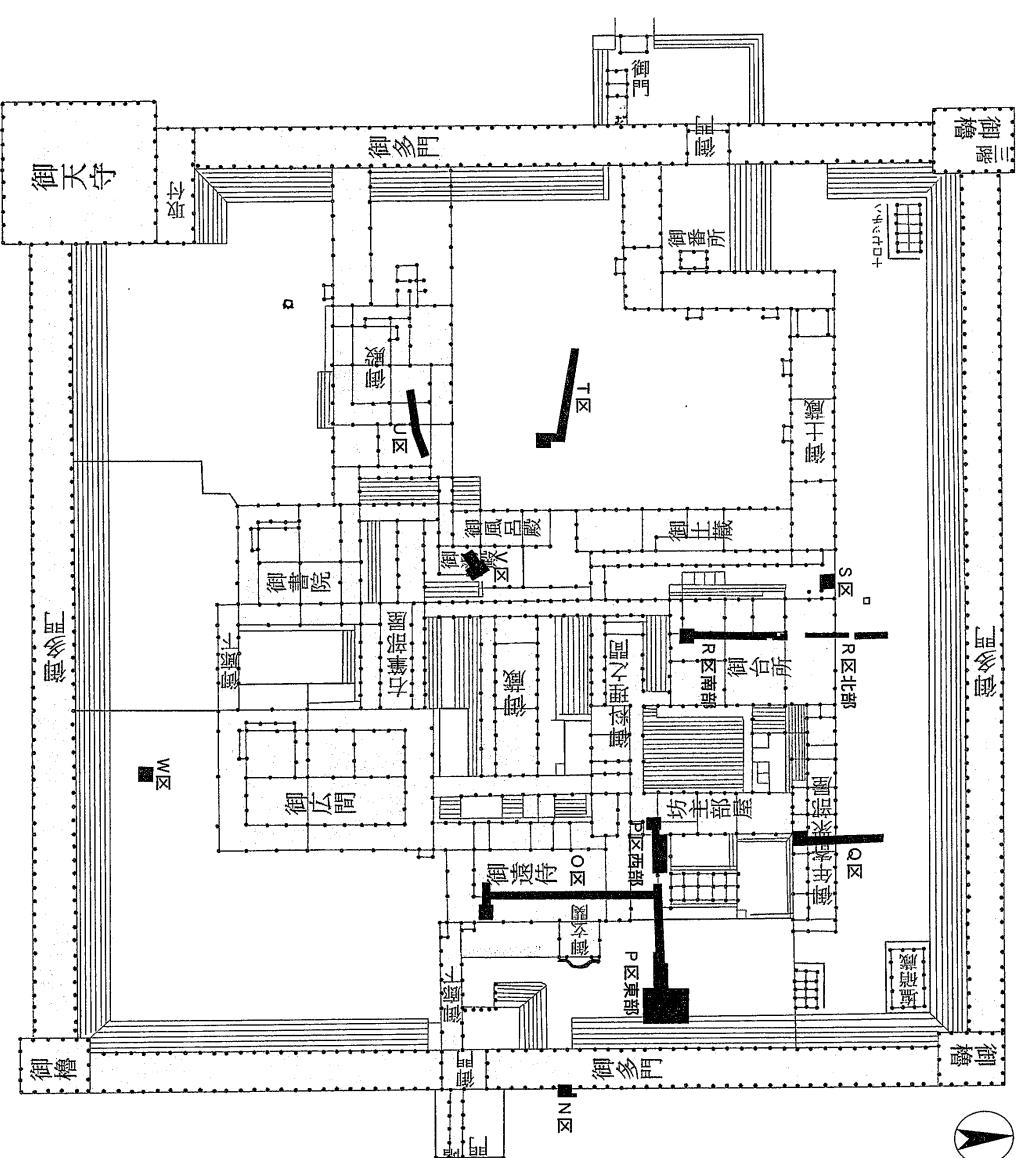
緑の園

本丸



二の丸

図7 調査区配置図 (京都市埋蔵文化財研究所 2010年)



本丸御殿

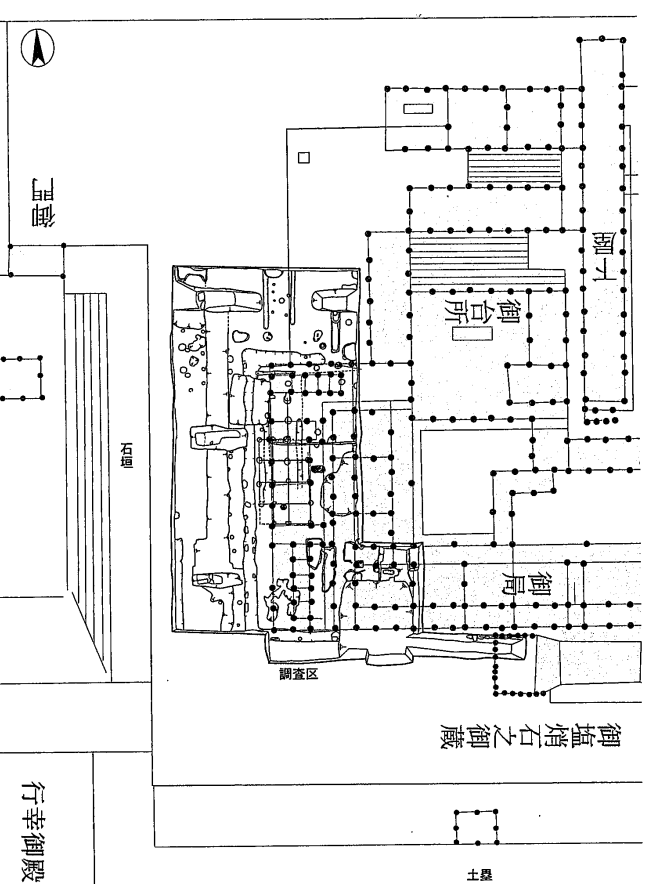


図8 寛永期の絵図と調査位置 (京都市埋蔵文化財研究所 2010年)

『行幸御殿并古御建物御取解不相成以前 二条御城中絵図』中井正知家蔵より作図